

建設の時代から維持管理の時代を経て、再生が本格化する時代が到来
都市の主要材料であるコンクリートについて、**閉じたりサイクルフローを完成する必要がある**

既往の研究：高品質な再生骨材の開発を低コストで実現する方法を模索
⇨処理コスト、処理副産物の問題は解消せず →別角度からのアプローチ

[再生コンクリートの問題]

普通コンクリートに比べると、強度や物質移動抵抗性が低い

同等でないダメ？
足りない分は補えば？

①**異種材料との組み合わせ**による部材性能の確保

→コンクリートだけで勝負せず、チームで勝負

Ex) 含浸による再生骨材の特性改善、鋼管・非鉄材料を用いた補強、
建物の破壊基準の見直し(=死の定義)

②リサイクル材に対する**イメージの転換**

→「環境のためにリサイクル品を使わないといけない」から「リサイクル品を使いたい」に

Ex) ブランディング・企業イメージの転換事例などから手法を探る、公共調達価格

期待する成果：新たな価値基準に基づく循環型未来社会像とその実現策の提示

参加教員：千々和伸浩（土木）、三井和也（建築学） + 関心のある企業の皆様

